

教材・支援機器活用実践事例【ICT】

実験結果共有のための ICT 活用 「実験結果のグラフ化」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・中学部3年
	障がい名等	肢体不自由
	子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等)	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級で、学年相応の学習を行っている。 ・空間認知が苦手な生徒もいる。
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	理科
	単元(題材)名	単元名「運動とエネルギー」 第3章エネルギーと仕事
	単元(題材)の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・運動とエネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現する。また、探究の過程を繰り返す。(思考・判断・表現)
教材・教具支援機器について	教材・教具 支援機器	<p>Google スプレッドシートによる、実験結果のグラフ化</p> 
	ねらい・工夫点	<p>〈ねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実験結果を表に入力すると同時にグラフ化されることで、考察の時間を十分に確保する。 <p>〈工夫点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラスルームでスプレッドシートを共有することで、入力した内容を自分のタブレットで見られるようにした。 ・ 実験を行う人、入力する人など、分担してみんなで実験を進めることを意識できるようにした。
	材料・作成方法等	タブレット端末
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験結果がすぐにグラフ化されるため、入力しながら、傾向に気付く生徒がいた。 ・ 入力担当者が間違いなく入力できているかどうかを自分のタブレットを見ながら確認し、意欲的に参加していた。 ・ 考察の時間を確保したことで、グラフから読み取れることを自分のことばで文章化する様子が見られた。